

第14回弘前市医師会医療従事者 学術講演会

～ 日時・会場 ～

日時:2019年3月29日(金) 19:00～20:00

会場:弘前文化センター 2階 中会議室

住所:弘前市大字下白銀町19-4

TEL:0172-33-6571

～ プログラム ～

Opening Remarks

弘前市医師会 会長 / 今村クリニック 院長

今村 憲市 先生

Lecture

座長:弘前市医師会 勤務医交流委員会 理事

津軽保健生活協同組合 健生病院 副院長

演者:東北大学 大学院医学系研究科 齋藤 美貴 先生

公共健康医学講座 医療管理学分野 教授

宮城県 地域医療構想アドバイザー

藤森 研司 先生

「データから見る青森県の医療状況 ～津軽地区のNDBの現状とその活用を中心に～」

本会は日本医師会生涯教育制度に係る認定講座となっております。
(カリキュラムコード12:地域医療)

共催:弘前市医師会/サンド株式会社/ノバルティスファーマ株式会社



お手数ですが運営の都合上、3月26日(火)までに、この用紙(下記)FAXにてご参加人数をお知らせ頂きますよう、お願い申し上げます。
(返信欄)

FAX番号:017-723-3498 ノバルティスファーマ株式会社 青森営業所 徳山宛

ご施設名: _____ ご芳名(ご職業): _____ ()

藤森 研司 先生 講演概要・略歴



Lecture

藤森 研司 先生

医療のビックデータの一例として匿名化電子レセプトのアーカイブであるNational Database (NDB) について、その特徴と制約について解説する。NDBは平成21年度分からすべての電子レセプト（医科，DPC，歯科，調剤）と特定健診データが突合可能な匿名化の後に厚生労働省保険局に集積されている。本来は医療費適正化のために集積されたデータであったが，都道府県や研究者にも門戸が開放された。

そもそもの電子レセプトの制約に加えNDB特有の制約はあるが，電子レセプトの電子化率が98%に迫る今日では，我が国の医療状況を悉皆性を持って把握できる仕組みと言えるだろう。

NDBの活用例として厚生労働省医政局と共同で申請し，都道府県の地域医療計画，地域医療構想のために提供しているデータブックの例を提示する。青森県のがん・糖尿病を中心に医療提供体制と患者受療動向を示す。

- 1984年 北海道大学医学部卒業 同大学院進学 同核医学講座入局
- 1987年 米国国立衛生研究所 (NCI) (NIH)留学
- 1991年 北海道大学院修業
- 1993年 札幌医科大学医学部放射線科 助手
- 1994年 同講座 講師
- 2003年 札幌医科大学医学部附属病院 医療情報企画室 室長 (兼務)
- 2007年 北海道大学病院 医療マネジメント寄附研究部門 特任准教授
- 2010年 北海道大学病院 地域医療指導医支援センター センター長、准教授
- 2013年 東北大学医学系研究科・医学部 公共健康医学講座
医療管理学分野 教授
- 2018年 宮城県 地域医療構想アドバイザー